

20m11H発表記録

近代教育思想と教授学の成立



各班ワークシート複数資料用(まとめ)

1) (班内) まとめ

班のテーマ (近代教育思想の探求)

■テキスト (新しい時代の教育方法)

まとめ ()

- ・ 中心にしていた教育から経験を中心とした教育へ
- ・ 自らの行為と自らが決定する自発的な主体形成
- ・ 学校はパンソフ

■肯定的 web (近代思想の元)

まとめ ()

- ・ ヨーロッパの近代の思想の特徴は
- ・ 生存のための権利を有するということであり、
- ・ その思想を具現化したルソーは生存力を
- ・ 形成する教育を唱じた。その教育は金銭の教育
- ・ と金銭を満たす力の教育という二面性を帯びる

■否定的 web ()

まとめ ()

- ・
- ・
- ・

■班としての要約

まとめ ()

- ・ 17-18世紀のヨーロッパの近代思想は現代教育の
- ・ 元となっており、その時代に生まれた多様な思想
- ・ があって現代に多種多様な教育方法が生まれ
- ・ たんだと考へました。

キーワード 10~20 語	明日中に	概念系統図
近代教育思想、教育哲学	リアリズム	科学的思考方法
コメニウス、パンソフ	能力観	子どもの意見
消費者教育、自然本性	ルソー	生存権
・	・	・
・	・	・

2) 全体発表 (模擬授業) を聞いて、自分の班の取り組みについて感じたことをのべよ。

- 今回は1の内容から派生させたものではなく、いくつかの筆を用いてまとめたような内容だったのびあまり面白いに説明できなかったと感じた。

2**) 今日の授業で、気づいたこと、感じたことをのべよ。

- 今回のテーマは学校教育の基礎に関わるような内容が多く、当たり前である内容が多かったが、みな当たり前の事でも元になるような事ばかりがあったのび当たり前と思わず、なぜこのようにしているかを考えたりできたことを感じた。

■ 5段階班の自己評価 ()

教育学の体系化と授業の組織化



各班ワークシート複数資料用(まとめ)

1) (班内) まとめ

班のテーマ (教育の体系化と授業の組織化)

■テキスト (新しい時代の教育方法)

まとめ (教育は知識だけでなく人間性・協同性を養う)

- ・ハルバート「教育の目的は、品性の陶冶」
- ・千工必修としてシグネウスは位置づけ、教育のスロイト
- ・新教育活動により「静的・画的な教育から主体的な教育法へ」

- ・千工はオキペーション³にはプロダクト活動を提唱

■肯定的 web (シグネウスは子ども時代や資料が手紙)

まとめ (「教育的スロイト」の成立をめぐって) ←

- ・千工科を等しいにはフィラードン、千工
- ・シグネウスは12には作業場に入っているが、これは技能
- ・千工主眼点が既にあった。しかし教養と見なされていた
- ・フレベリは子どもには早い段階で創出活動をして行うべきとして

2) 全体発表 (模擬授業) を聞いて、自分の班の取り組みについて感じたことをのべよ。



他の人物や現代にかいてき、思想はつながり及ぼされている？

情報化によりさらに変化するが、

■ 5段階班の自己評価 (4/5)

■否定的 web (千工-1.27-1.10カクコウにみけ子)

まとめ (千工は画一的な指導を指摘、オキペーションを提唱)

- ・旧教育より転換を主張
- ・家庭内・産業とみえた教育が、近代化で失われる
- ・オキペーション → ↑仕事と模範にした
- ・「生活する場としての学校」として、かつての家庭を拡張

■班としての要約

まとめ (千工事はアクティヴ・ラーニング?)

- ・千工事は子どもにとって有用?
- ・↑より起った事象について子ども同義、教師と対面
- ・今でも画一的な指導が根柢にあることは、

キーワード 10~20 語 明日中に 概念系統図

- ・千工
- ・シグネウス
- ・オキペーション・ラミエ
- ・教育的スロイト・サモニ
- ・プロダクト活動、協同性
- ・ハルバート
- ・品性の陶冶
- ・新教育活動

2**) 今日の授業で、気づいたこと、感じたことをのべよ。

資料をよみくるとめるとか難しいが、?

教育内容がより資質・能力を意識されたものになって、どうなるか、気づきを得た

カリキュラム研究の成立と展開



各班ワークシート複数資料用(まとめ)

1) (班内) まとめ

班のテーマ (カリキュラム研究の発展)

■テキスト (新しい時代の教育方法)

まとめ (ささきまら研究がカリキュラムについて)

- ・ 科学的決り定め運動
- ・ 学習単元の設定
- ・ 形式的評価

■肯定的web (学習指導要領と折角、学習指導要領)

まとめ (日本のカリキュラムは学習指導要領)

- ・ 一人一人の個性を大切にしている
- ・ 教育課程(カリキュラム)を偏成33課の基準
- ・ 時代の変化についていけるよう10年毎に見直し

■否定的web (教育課程をめぐる現状と課題)

まとめ (現在の教育課程の考え)

- ・ 一人一人の国民の人格形成
- ・ 国家・社会の育成
- ・ 「生きる力」を育む
- ・ 知識・技能を活用し、考えたり、表現したりする力の育成

■班としての要約

まとめ (ささきまら研究がカリキュラムについて)

- ・ 研究して、現在でも変化している

・ 時代の変化

キーワード 10~20語 明日中に 概念系統図

- ・ 科学的決り定め運動
- ・ 知識・技能
- ・ 学習単元の設定
- ・ 活用する
- ・ 形式的評価
- ・ 考える
- ・ 一人一人の個性を大切にしている
- ・ 表現する
- ・ 「生きる力」を育む
- ・ 時代の変化

2) 全体発表 (模擬授業) を聞いて、自分の班の取り組みについて感じたことをのべよ。

■ 今までの研究をもとにして作ったのが現在のカリキュラムであり、それはこれから時代によって変化していくものだと思います。

2**) 今日の授業で、気づいたこと、感じたことをのべよ。

■ 1つ1つの事例を聞いていてもさうですが、時代の変化はとてつらく、それについていけるように教育も変化してい、という感じがしました。

■ 5段階班の自己評価 (

3

)

ICT活用例

General

01:54:41

制御を要求

Mic icon | Camera icon | Chat icon | Screen share icon | More options icon | Stop video icon | Microphone icon | End call button (退出)

自動保存 ● 文書名第11回学習課題「ICT活用例」.docx - この PC に保存済み

ファイル タブ リボン ホーム 挿入 デザイン レイアウト 参考資料 差し込み文書 校閲 表示 ヘルプ 🔍 検索

MSゴシック(10.5pt) A^ A^ A 文字拡大 文字縮小 フォントの色

元に戻す 手書き 図 段落 電子メール コメント

3. ICT活用のねらい
・設計・制作を通じて、メディアの特徴やその複合方法、著作権等を知り、情報を表現、発信できるようにする。

4. ICT活用例

学習内容	指導過程・学習活動	指導上の留意点
ICT活用の場面 ・作品上映のための電子黒板	○過去の作品を鑑賞し工夫点をあげる	
・生徒用PCで動画編集ソフトウェアを使って編集	○制作のポイントに沿って編集作業を行う ・動画と静止画のバランス ・BGMの効果 ・文字の色・フォント ○他者との相互評価 ○編集作業について自己評価する ・作業意欲 ・メディアの複合や表現・発信 ・教師の支援は十分であったか ・次の作業課題を確認	○データ量等に配慮したメディアの選択 ○メディアを活かした適切な利用 ○BGMの著作権や使用する写真の肖像権などの知的財産についての配慮
	イメージ図など	



20m11H03tanaka - ペイント

2/2ページ 467文字 日本語 挿入モード

各班ワークシート (模擬授業まとめ)

改善したこと、すべきことを書くこと (指導案の要約ではない)

1) (班内) まとめ

班のテーマ (ICT活用例)

■学年・単元・本時の内容 (提示する教材)

・中学3年

・技術・家庭

・動画編集ソフトウェアを使ってデジタル作品を制作して感動を伝える

■目標、内容・指導の概略等

・マルチメディア作品の設計・制作を通じてメディアの特徴やその複合方法、著作権等を知り、情報を表現し発信できるようにする。

2) 全体発表 (模擬授業) を聞いて、自分の班の取り組みについて感じたことをのべよ。

■ ICTを活用することによってどのような利点があるのかを伝えることができた。

2*) 今日の授業で、ポイントと思ったことをのべよ。

■ 知的財産についての学習も同時に学習することができた。

■教材・板書計画、評価の観点・規準等

評価の観点

生活や技術についての関心・意欲・態度
メディアの複合や表現・発信の工夫について目が向き、アイデアを尊重しようとする態度

■工夫した点、出典等

出典: <http://eduict.java.or.jp/pdf/h23/58.pdf>

■模擬授業を実践してみて感じたこと、わかったこと

2**) 今日の授業で、気づいたこと、感じたことをのべよ。

■ ICTを活用し、何か作品を制作するのはかなりの時間を使って完成させることも多いため、しっかりと計画を立てて指導しなければいけないと感じた。

ICT活用例



各班ワークシート (模擬授業まとめ)

改善したこと、すべきことを書くこと (指導案の要約ではない)

1) (班内) まとめ

班のテーマ (ICT授業例)

■学年・単元・本時の内容 (提示する教材)

中学1年生 美術科

アニメーションの活用

■目標、内容・指導の概略等

- 美術の表現の可能性を広げるためにICTを使う
- ICTを使うと様々な試みを採りこれを活かし楽しく創造的な表現とできる

2) 全体発表 (模擬授業) を聞いて、自分の班の取り組みについて感じたことをのべよ。

■ ICTの授業は様々な歴史的な教育とつながらないと飛べる

2*) 今日の授業で、ポイントと思ったことをのべよ。

■ 学校で勉強を行う意義と学校での勉強内容

■教材・板書計画、評価の観点・規準等

ICT → タブレット

タブレット

■工夫した点、出典等

中学校美術科の指導におけるICTの活用について

■模擬授業を实践してみて感じたこと、わかったこと

2**) 今日の授業で、気づいたこと、感じたことをのべよ。

■ 市民教育の始まりと現在の教育

形が多岐に亘っていて進化していったんだなと感じた。

確認問題10

02:14:16

General



退出



ミュート解除 (Ctrl + Shift + M)

自動保存 確認問題10.docx - 最終更新日時: 4 時間前

ファイル ホーム 挿入 デザイン レイアウト 参考資料 差し込み文書 校閲 表示 ヘルプ

貼り付け MS 明朝 10.1 A A A A B I U x x A A

グループボード フォント 段落 スタイル

あア垂 あア垂 あア垂
標準 行間詰め 見出し 1

検索 変換 選択 デクテーション 秘密度 エディター

確認問題・10

(1) 協同的探究学習の研究からまとめられた「わかる学力」の形成につながる学習の要点を4つ挙げよ。

- ・問題を理解する
- ・計画を立てる
- ・計画を実行する
- ・振り返ってみる

(2) 次の「できる学力」と「わかる学力」に関する文章の空欄を埋めよ。

「(できる) 学力」の手続き的知識やスキルの(獲得)メカニズムは(振り返り)による

1/1 ページ 638 文字 日本語 アクセシビリティ: 検討が必要です

+2

上

酒

塚

開

坂

多

北

各班ワークシート (確認問題まとめ)

1) (班内) まとめ
各問のポイント

■問1

わかる学力の形成におけるポイントとして、
「問題の理解」「計画の立案」「計画の実行」
「ふり返り」の4つがあげられる。

■問2

できる学力の獲得メカニズムは、
繰り返すことである。一方、わかる
学力の深化メカニズムは、知識と
知識を結びつけることである。

2) 問題全体を通して見て、全体のポイントと
思ったことをのべよ。

■ 生活上の経験から得られる学びは
いつの時代だろうと重要視されてい
る。

2*) 問題全体を通して見て、気づいたことをのべ
よ。

■ 昔の教育は、今の教育目標とは違い、
思想の統一や神から与えられた云々が
と、宗教じみたものだったんだなと感
じた。

■問3

定型的な手続きの獲得が難しい
子どもには、具体物やモデルを用いて、
個に応じた指導が重要である。

■問4

日本の子どもたちは、定型的な手続き
的知識等を適用する力は高いものの、
概念的な理解や思考プロセスの説明
等の力が低い傾向がある。

2**) 確認問題に取り組んでみて、確認問題に取り
組む時間や、問題内容と発表班との関係などにつ
いて、気づいたこと、感じたことをのべよ。

■ 確認問題に取り組む時間は、最初の方
と比較すると短くなった。

理由は、問題への取り組みに慣れたと
いうのと、教科書の索引をうまく使えるよう
になったからだと思う